

---

# 魔王ゴンクエスト

あてう

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔王ゴンクエスト

### 【Nコード】

N2070L

### 【作者名】

あてう

### 【あらすじ】

ここは禍々しい妖気に包まれた魔界の城。

そこに君臨する魔王。

強大な力で魔軍を率いる彼は10歳の少年だった・・・

勇者、そして彼の仲間達へ立ち向かう魔王の物語。

## 序章 死闘？（前書き）

ゲーム「ドラゴンクエスト」を魔王視点から書いた、パロディ小説  
みたいな感じですよ。

本家を生かしたいと思いますが、こういったものが苦手な人がいる  
かもしれないので、なるべく気をつけて書きたいと思います。  
よろしく願いします。

## 序章 死闘？

禍々しい妖気に包まれた魔王の居城

「とうとうここまで辿り着いた・・・！」

その深奥、巨大な玉座のある祭壇。

妖気はそこを中心に蠢き、玉座に腰を据える人物を取り囲んでいた。

「あれが・・・魔王・・・！」

それに対峙するのは、四人の勇ましい猛者たちである。

巨大な斧を担ぎ、仰々しい鎧に身を包んだ戦士風の男。

知性あふれる顔立ちで、胸のロザリオを握り締める僧侶風の女。

危なげな笑みを浮かべ、自分の身の丈より長い杖を持つ魔術師風の女。

そして、

竜の加護を受けた剣と防具を持ち、一心に玉座を見据える勇者風の男。

その四人が、魔王、と呼ばれた一人の人物に立ち向かっていた。

(ふはははははははははは!! よくぞここまで辿り着いたな!)

直接声に出すことも無く、魔王は四人の意識に語りかける。

背中には巨大な黒い翼を持ち、両手の爪には名刀の鋭さを備えていた。

(世界を闇で覆う・・・我が野望を邪魔しようとする不屈き者達め！  
貴様らのようなちっぽけな存在が我に敵うと思ってるか?)

そして、その翼で宙に浮かび上がる。

両手を広げた魔王は、刹那、煉獄から火炎を呼び出した。

「行くぞ！ みんな！」

勇者の掛け声に、四人は魔王へと立ち向かう。

(愚かな・・・)

貴様ら四人とも、この魔界の塵にしてくれるわっ!!!(

祭壇に、魔王の哄笑が響き渡った

## 登場人物紹介（前書き）

ドラクエ知らない人には分かりづらいかも。  
ご了承ください・・・。

追加の可能性があります。

## 登場人物紹介

ゴン

魔王。年齢は10歳。正式名はレゴンゼナスという。

性格はいたずら好きでワガママ。付き人のじいやを度々困らせる。

変身することで姿、声、オーラを魔王っぽく見せられるが、中身は変わらない。

一応魔王としての自覚は持っているようだ。

じいや

魔王の付き人。年齢は500を超えているとか。正式名はファラン

ジーアという。

ゴンのワガママによく振り回される。

だが、内心は素質のあるゴンに期待しているようだ。

スナト

魔王の世話係。年齢は18くらい。スライムナイト族。

ゴンの魔王就任と共に世話係となった。

気が非常に小さいが、回復・攻撃の魔法に長け、剣術もそこそこ。

ライドを乗りこなすのに苦労している。

ライド

スナトが乗っているスライム。

性格はいたってクール。無口なのであまりしゃべらない。

スナトとはケンカもあるが、仲は良い。

ホナミ

魔王の世話係。年齢は16くらい。ホイミスライム族。スナト同様、ゴンの世話係となる。性格はよく言えば生真面目、悪く言えば融通が利かない。

ヘトラ

魔界四將軍の一人。年齢は不明。ヘルバトラ族。見た目は非常に怖い、部下には温厚。四將軍の長。主に獣族、植物族のモンスターを従える。

アーデン

魔界四將軍の一人。年齢は不明。アークデーモン族。こちらは見た目どおり、気性が荒い。自称四將軍中最強。主に悪魔族、海獣族のモンスターを従える。

プリート

魔界四將軍の一人。年齢は不明。デスプリースト族。見た目は完全にゾンビなので、訳も無く皆に怖がられる。主にゾンビ族、エレメント族のモンスターを従える。

ガンテ

魔界四將軍の一人。年齢は不明。ギガンテス族。四將軍中トップのパワーと、トップの頭の悪さを誇る。主に物質族、スライム族のモンスターを従える。

## 登場人物紹介（後書き）

ネーミング適当ですいません。

## 第1章 魔界の現状（1）（前書き）

えー、大分ドラクエ用語が含まれてきます。分からない方は一応調べてもらえるとありがたいです。

## 第1章 魔界の現状（1）

「あー！ 疲れたあ！」

一人の少年が自室のベッドにはたつと倒れこんだ。

長髪で耳はとがっており、なかなか魅力的な顔立ちの美少年である。

「でも思ったより弱かったなー。イオナズンで2人も死ぬとは思わなかったわ・・・」

ベッドは少年がころころと転がりまわるのには十分すぎる大きさだった。

少年はふう、と溜め息を一つついて、仰向けになる。

「魔王様！ お話がありますので玉座の間へいらしてください」

部屋の外から老人のものと思しき声が聞こえた。

少年はあからさまに嫌な顔をして起き上がる。

「ええ！？ また勇者の一行！？」

「そうではありません。これからの仕事についてのお話で・・・」

「・・・わかったよ」

少年は再び大きく溜め息をつき、ベッドから降りた。

「で？ 何なの？」

少年は貧乏ゆすりをしながら玉座に腰を下ろしている。

玉座はこれまた少年には少し大きすぎた。

「本日は魔王としての初勤務でしたね。いかがでしたか？」

その前に立つのは白髪、白ひげの老人である。

人間の姿だが、これまた耳は尖っていた。

明らかに少年の十倍は生きているであろう老人だったが、不思議と腰や背中はずびんとしていた。

「あー、まあ普通かな。正直もつと張り合いのある奴かとも思ったけど。勇者って言うくらいだからね。」

でも回復役を倒したら途端に弱くなっちゃったよ」

意地悪げな笑みを浮かべ、少年は先程の戦いを思い出す。

「そうでしたか。いやはや、すっかり台本も覚えてくださって……  
。じいは感動しましたぞ」

そういつて老人は感慨深げな表情を浮かべた。

「いや・・・さすがに48回やったら嫌でも覚えるよ」

そういつて少年は苦笑しながら、今度は前日の猛練習を思い出す。

老人の練習は厳しかった。

「これからも頑張ってください。」

ああ、これから偵察部からの報告がありますので、ここでお待ちください」

「ええ！　じいやの話だけじゃないの!？」

「当然ですじゃ。魔王たるもの、しっかりと働いてください」

そういつてじいや、と呼ばれた老人は笑った。

そう、この少年は魔王。

魔界と人間達の住む世界の魔物を統括する、魔族の長である。

「報告します。キラーアーマー族が勇者一行を次々に壊滅させており、まわりのモンスター達からノルマが達成できないなどという苦

情が相次いでおります」

「ああー。じゃあキラーアーマー族の配置交換ね。もっとレベルの高いところに配置してやってよ」

「報告します。インフェルノマウンテンのボスより、ダンジョン内に二つの世界樹の葉を置くのは非常に困ることです」

「あーうー。じゃあ一個回収してきて」

「報告します。さまようよろい族より、仲間を呼ぶ際に、ホイミスライムよりもベホマスライムを呼びたいとのことですよ」

「えー・・・それはまずい。ベホマスライムとさまようよろいじゃベホマスライムのほうが多分強くなっちゃうもん。却下しとして」

報告は約二時間続いた。

その間、少年は自分の前髪を弄くりながら、しかし的確な判断を下していた。

「・・・以上で報告を終わります。ありがとうございました」

報告隊のガーゴイルが退室し、報告は終了する。

10歳の少年には退屈すぎる時間が終わりを告げた。

少年は大きく欠伸をして玉座にもたれかかる。

魔界の日は傾き、一日が終わるつとじていた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2070/>

---

魔王ゴンクエスト

2010年10月9日05時52分発行